

## 東部地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会 議事要旨

### 記

- 日時 平成 25 年 6 月 28 日（金）19:00～21:00
- 場所 釜石中学校体育館
- 次第
  1. 釜石市長 野田武則あいさつ
  2. 復興事業実施スケジュールについて
    - ・ 津波復興拠点整備事業、漁業集落防災機能強化事業、漁港施設機能強化事業、社会資本整備総合交付金事業について
    - ・ 今年度の前半から秋以降にかけて必要な用地買収を行った後、本格的な土木工事を平成 26～27 年度まで行う
    - ・ 住宅は造成工事が終わった箇所から順次、再建予定
    - ・ 各事業における盛土高さグリーンベルトについて
  3. 復興公営住宅について
    - ・ 天神地区（旧一中）：40 戸整備、平成 26 年度下期に入居予定
    - ・ 中心部（大渡町～浜町）：約 310 戸程度整備予定、一部平成 27 年度上期からの入居目標
    - ・ 具体的な建設地とスケジュールは、7 月以降に土地価格を提示した交渉を再度行った後に提示予定
  4. 住宅再建支援制度について
    - ・ 現在の自力再建支援制度について
    - ・ 国から追加で分配された基金を活用した、新たな支援制度（釜石市単独被災者住宅再建支援事業補助金、釜石産木材活用住宅推進事業）について
  5. 都市計画変更について
    - ・ 都市計画の変更手続きを 8 月中に終える予定  
用地買収については先行整備地区も含め進んでおり、8 月頃から本格的な工事が始まる予定
    - ・ 嵩上げを行っていくエリアに計画盛土高さ表示板、浸水深表示板の設置を行う予定

## 6. 東部地区フロントプロジェクトについて

### FP1：商業と賑わいの拠点

公共施設と商業施設の効果的配置により、交流と商業の拠点となる新しい市街地の顔を作り、周辺への投資を誘発させるプロジェクト

### FP2：新しい市庁舎を中心とするまちづくり

震災の経験を踏まえた市庁舎の建設を中心として、都市機能の整備により回遊性と利便性を向上させ、来街者の増大による地域振興を図るプロジェクト

### FP3：魚の復活と魚河岸地区のにぎわい創出

魚市場の整備と背後地への水産加工施設の集積を核として、広場や親水空間などのにぎわい施設を整備し、FP1 並びに FP2 と連携させるプロジェクト

### まちづくり会社

まちづくり会社を設立し FP1 における駐車場や公設店舗での、事業間の融通、経営の創意工夫、収益の再投資によるエリアの価値増大を図る

## 7. 私的整理ガイドラインについて

- ・私的整理ガイドラインに適用される借入金の種類と減額・免除のルール、利用するメリットについて説明

## 8. 意見交換

短い時間で広範な内容について説明があったが、多くの方が集まって頂いているが十分な意見交換ができるのかを心配している。  
都市計画説明会では、天神町復興公営住宅の説明、まちづくり会社については本日、お聞かせいただけるとのことだったのでお聞きしたい。

- 全体の説明会ということで、多くの情報をお出ししたかったため長くなってしまいました。限られた時間中でできる限り意見交換していきたくと思っています。時間が足りずに聞けなかったことなどについては個別に説明していきます。
- 天神町の復興公営住宅については、別途、7月末に住民のみなさまへの説明会を予定しています。
- まちづくり会社は、まちづくりや駐車場等の運営を役所が縦割りで実施するよりは、民間企業的な経営方法を導入することで、公共的な事業の全てが必ずしも黒字化するとは言いきれませんが、少しでも皆様から集めた税金を効率的に使っていきたく考えた場合の最良案として考えているものです。

個々の地域で、課題別に顔を突き合わせた議論や検討をすべきではないか？

→ 本日は、東部地区全体の説明会のため、短い時間の中で全ての内容について意見交換をすることは難しいですが、フロントプロジェクトなど個々の検討の場では様々な意見を踏まえ検討していきます。

今後も個々の検討と全体説明会を繰り返す方法で進めていき、皆さまの意見を極力お聞きしながら進めていきたいと思えます。

まちづくり会社については、皆様に迷惑に掛からないよう過去の反省も踏まえつつ、民間の良さを取り込みながら、まずは復興に向けたスタートをきるという決意のもとに始めるものであります。

天神町の市営住宅についての説明は、戸数や家賃、戸当たり住める人数などのより具体的な提示が必要である。何故40戸しかできないかなどの説明も必要である。

→ 部屋の大きさは、財源が全国の増税でまかなわれている点や、十分な用地を確保することが困難であることから、これまでに示してきている大きさでお願いしたいと考えています。なお、市が建設する住宅については、関係機関との協議を重ね、県のものよりも大きめにつくる予定です。

天神町の公営住宅の40戸については、市役所が戸数ありきで進めてきているものではなく、必要な機能をお聞きしながら駐車場や子育てスペースなど必要な空間を配置した後に、最大確保できる戸数となっています。

東部地区における公営住宅の310戸という数字は、東部に住んでいた方で戻りたいという方の数を参考としたもので、引き続き用地交渉を続けていきます。その他の地区から東部に住みたいという方もいると思うので最低限の目標値として捉えています。

自力再建して釜石を復興させたいという市民は多い。支援制度を拡充して頂いてきたところであるが、まだまだ支援金が必要。

既存の建物を解体してまで新設する必要はなく、そこで余ったお金を市民に回して支援して欲しい。

→ 国から交付される事業費は用途が決まっているため、自由に転用できません。支援拡充に使えるお金が出ればまた拡充を検討していきたいと思えます。

既存施設の活用については、大規模な補修や建替えが必要となる施設もあり中長期的な維持・管理や将来の市民負担についても考えながら、新設が望ましいものについては建替えを検討していきます。

復興の3Dのイメージについては、この場以外で見える方法はあるか？

→ 今後、ホームページに掲載していきたいと思えます。

パソコンを持っていない方もいる。商業施設や公共施設などに自由に使用できるパソコンが設置されているが、あっても使えないという方もある。NHKのニュースで流してもらうとか、もっと誰でも見られる方法を検討して欲しい。

→ DVD化によって仮設集会場テレビで見られる工夫など今後考えていきます。

3Dイメージは、グリーンベルトや防潮堤などの高低がより良く分かる工夫をして欲しい。また、汐立川は入っていたか？

1000年後の津波への対策も必要であるが、頻繁にある風雨、地震への備えとしての安全安心も十分に考えて欲しい。

東部の復興には、まず住むことが優先される。災害公営住宅には高齢者が多く入居すると思われるため、商業施設による若者の雇用の創出とともに、高齢者も働ける浜町の漁業復活など働く場所の確保を期待している。

また、大規模な事業が将来的に市の財政状況を悪化させないか心配である。

→ 汐立川は入っている。今後、高さを含め分かり易い表現を工夫して行きたい。また、東部の安全安心の要である汐立川を含めた排水計画を現在、検討中である。決して大型プロジェクトのみを考えて進めている訳ではなく、多岐に渡る事業を同時並行に進めていかなければいけない中で、優先順位をつけながら進めている。市としても水産加工の集積は非常に重要と考えており、国の事業を上手く使いながら財政上も問題ないように進めて行きたい。また、積極的に漁業関係の企業誘致に努めていきたい。